

安心・安全  
継続・受け  
住み・ユニ  
住み・ユニ

# 知ら咲か



2021 MAY No.96

(編集発行)「知らせましょ・咲かせましょ」事務局・広報(住所)宝塚市逆瀬台 URL <http://www.shirasaka8.net/>  
連絡先 「知ら咲か」ホームページの“問い合わせ”をご利用下さい。

## 新型コロナウイルス変異株拡大に注意しましょう

### 感染力が大きく重症化しやすい特徴

大阪府や兵庫県での新型コロナウイルス感染症の拡大が続いており、宝塚でも多くの方の感染が報告されています。

#### ★変異株で急拡大

兵庫県で変異株が報告されてから急速に感染者が増えています。

宝塚市の感染者情報では若い方の感染が増え、それらの方から高齢者にも感染が広がっているような傾向が見られます。

家庭内でも家族に感染をさせないという生活を選択せざるを得ない段階にきているのでしよう。



個人的見解を記すのはふさわしくないのですが、以下の厚労省資料の抜粋を参考掲載致します。

#### 厚労省の変異株への対応資料より抜粋

国内で見つかっている変異株とは、どのようなものか。

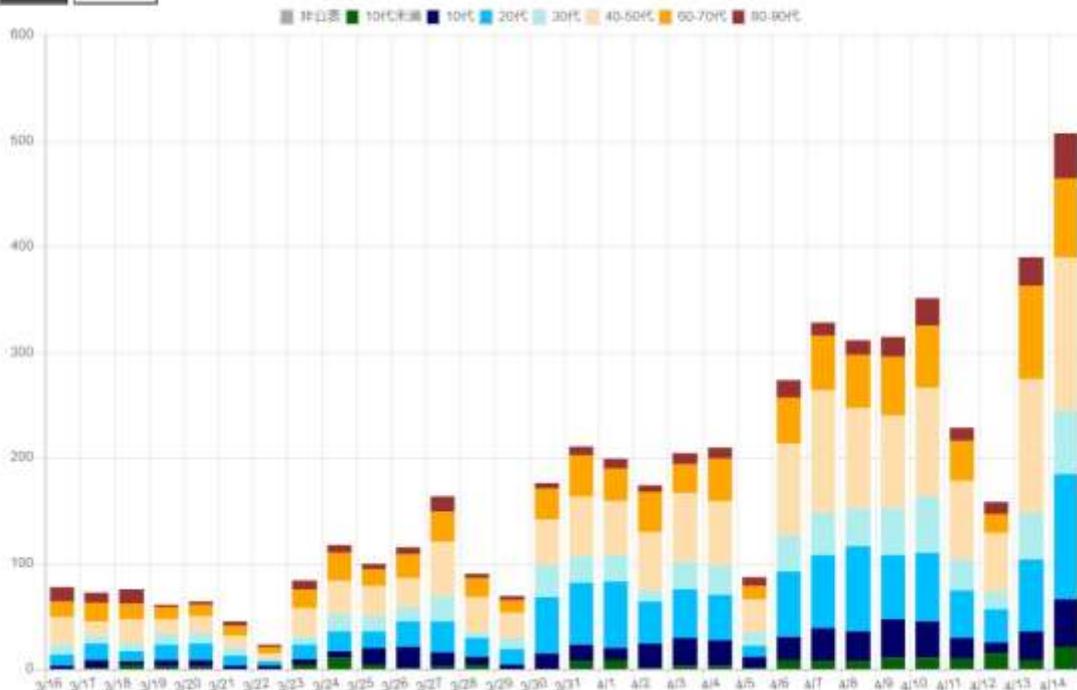
従来よりも感染しやすい、重症化しやすい可能性のある変異株や、ワクチンが効きにくい可能性のある変異株が世界各地で報告されています。日本では、昨年末以降、こうした変異株のクラスターが複数報告され、海外とのつながりがない事例も継続して確認されており、地域での流行に備える必要があります。個人の基本的な感染予防策は、変異株であっても、3密(密集・密接・密閉)や特にマスクの高い5つの場面の回避、マスクの着用、手洗いや消毒、これらと同様に有効です。国民の皆様の感染予防策への協力をお願いいたします。

#### ★3月中頃から急拡大

兵庫県では3月から急拡大

属性者の状況(年代別)

月間 全期間



大していません。一日も早い終息が待たれます。十分注意をしましょう。

### 逆瀬川の砂防設備

## 日本土木学会選奨土木遺産に

4月1日、ゆずり葉緑地公園のモニメント前に日本土木学会選奨土木遺産のプレートが設置されました。

日本土木学会では土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資する

ことを目的として平成12年に選奨制度にを設立しました。

土木学会としてはこの顕彰の結果として、①社会へのアピール(土木遺産の文化的価値の評価、社会への理解等)、②土木技術者へのアピール

(先輩技術者の仕事への敬意、将来の文化財創出への認識と責任の自覚等の喚起)、③まちづくりへの活用(土木遺産は、地域の自然や歴史・文化を中心とした地域資産の核となるものであるとの認識の喚起)、④失われるおそれのある土木遺産の救済(貴重な土木遺産の保護などが促されることを期待している)と趣旨を記しています。

場所はラジオ体操グループが、毎朝利用しているゆずり葉緑地公園のモニメント前に顕彰プレートが、芝生広場に、土木遺産逆瀬川の砂防設備の説明看板が設置されました。

今後、数多くの地域の方、ハイキングに来られる方々の目に触れることでしょう。併せてモニメント内の説明プレートも読まれることでしょう。



【看板記載事項の転記】

土木遺産 逆瀬川

なぜ土木遺産に

逆瀬川の砂防設備が令和元年度に公益社団法人土木学会選奨土木遺産に選奨されました。その理由は次の通りです。

- ① 日本近代砂防の父と呼ばれる 赤木正雄博士（明治20年兵庫県豊岡市出身）指導のもと施工された日本初の流路工である。
- ② 良好に維持管理されていて、整備された当時の鎧積み堰堤などのデザインが残っている。



③ 「逆瀬川砂漠」と呼ばれた荒地が良好な住宅地として発展し、防災対策の成果が優れている。

- \*1 砂防設備とは、山地や海岸・河岸などの土砂の崩壊・流出を防止、あるいは調節する構造物
- \*2 流路工とは、護岸などの構造物などにより浸食を防止し、安定した水の流れを確保する設備
- \*3 鎧積み堰堤は、石と石の隙間に直接水が当たらないように15cmほど凹凸ができるように積んだ堰堤。命名は、

どのように整備されたの？

かぶとのシコロ（後頭部から首回りを保護する部分）に似ていること由来

○逆瀬川は、六甲山系の東に位置する檜ヶ峰に源を発し、宝塚市街地を流れ武庫川に注ぐ、延長約6km、流域面積約5.4kmの二級河川です。

○安土桃山時代、豊臣秀吉が大坂城築城のため石を大量に掘り出し、明治時代には、木材の伐採により上流域一帯は草木の生えない山となっていました。

○明治当時は幅300mになる石



7月の河原の箇所もあり、大雨が降るたびに土石流が発生し、住民が避難する荒廃した河川でした。

○1892年（明治25年）7月の武庫川大水害をきっかけにして、兵庫県は砂防計画を作成し、その3年後、緊急を要する逆瀬川の上流域において、土砂流出を抑制する山腹工事開始しました。

○1899年（明治32年）には国の補助を受け工事が推進され、1928年（昭和3年）から日本初の流路工事が始まり、1934年（昭和9年）に完成し、現在の姿へと引き継いでいます。

○完成後の1938年（昭和13年）に阪神大水害が発生しましたが、逆瀬川流域で



「逆瀬川砂漠」とよばれていた逆瀬川（明治中期）



流路工完成当時（昭和9年頃）

は大きな被害がでませんでした。

知っていましたか？

○上流域では、土石流などを防ぐため、斜面に石積みやアカマツの植林、水が流れる場所には堰堤が築造され、上流からの土砂流水を抑え、河岸の浸食を防止しています。

○中流域では、現場にある玉石を利用して石積みの護岸を行い、補強のために、県下で初めてコンクリートが使われました。さらに川の流れに曲線を用いることで、景観にも配慮がなされています。

白瀬の自然

# 「カラスのエンドウ」

カラスのエンドウは田んぼや野原など 各地の何処でも見られます。この白瀬川周辺でも見ることができる植物です。

分りやすいのは小さな紫の花を咲かせている姿ですが、その場所を覚えていればそこに青い豆をつけて、やがて熟してさやが黒くなって中に豆を見ることができます。

漢字で書くと「烏野豌豆」と表わされます。

同じようなものにもう少しこぶりな「雀野豌豆」もあります。しばしばカラスのエンドウの近くでスズメのエンドウを見かけることがあります。

豆果が黒く熟するのも「烏」の名にふさわしいでしょう。

よく似たもので「ツルナシカラスのエンドウ」があるそうです。こちらは葉の先端が巻きひげとならず、その代わりに小葉になっているそうです

今回は 10 年くらい前にこの地区で撮影した物を 7 掲載させて頂きました。今も同じ場所で見ることができます。



「知ら咲か」会費受付中です

一口 **3,000 円**

会費は「知ら咲か」発行費用に使わせて頂きます。

多くの方のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

「知ら咲か」事務局一同

【編集後記】

新型コロナウイルス感染症の大きな局面を迎えました。兵庫県、大阪府などで従来型のウイルスに取って代わって変異型が急速に拡大しています。

感染スピードが速く、さらには重症化しやすいという特徴のあるウイルスです。

とにかく、感染予防の原則であるマスク、手洗いがいい、消毒、3密（密閉、密集、密接）の回避は今まで通り続けましょう。

ロックダウンしかない状況は避けたいですね。

(S)